

熊本県におけるハチクマの生息状況

井上賢三郎¹・皆吉悦夫²・西 照信³・船方義輝⁴・工藤栄介⁵・本田和彦⁶

1. 日本野鳥の会. 〒862-0947 熊本市画図町重富11-4
2. 日本野鳥の会. 〒869-4301 熊本県八代郡東陽村南835-23
3. 〒868-0502 熊本県球磨郡多良木町黒肥地4115
4. 日本野鳥の会. 〒869-1101 熊本県菊池郡菊陽町津久礼3600-225
5. 日本野鳥の会. 〒861-1101 熊本県菊池郡西合志町合生3337-4
6. 日本野鳥の会. 〒860-0042 熊本市小沢町12-1グリーンピア小沢302

はじめに

ハチクマ *Pernis apivorus* はロシアのバイカル湖西部から極東南部, 中国東北部, 日本と, インドから東南アジアで繁殖し, 東南アジアで越冬する. 日本では夏鳥として九州以北に渡来し, 低山から山地の林に生息する(森岡ほか 1995). ハチクマは準絶滅危惧種であり, その保護は重要だと考えられるが, 生態に関する情報が少なく詳細は不明である. 食性の特殊性や自然林の減少から, 個体数は減少していると考えられ, 国内でのハチクマの生息状況を早急に知ることが重要である.

熊本県でのハチクマの生息は, 養蜂業者による成鳥の捕獲(1980年頃 未発表)や幼鳥の飼育(1990年頃 未発表)によって以前より知られていた. また, 熊本県希少野生動植物検討委員会(1998)では, ハチクマは熊本県内には夏鳥として渡来し, 低山帯の森林で繁殖するが, 繁殖の確認は数例で, 繁殖期の生態については不明な点が多いと記載されているが, 詳細については今までに報告されていない. 筆者らは, 1988年から2005年にハチクマの生息状況の調査を行ない, 熊本県におけるハチクマの生息および繁殖を確認する機会を得たので, ここに報告する.

調査地および調査方法

筆者らや, 熊本県内の日本野鳥の会会員より寄せられた観察記録により, 繁殖期にハチクマの生息が確認された地点22か所の中から, 観察する際に広範囲を見渡せる場所がある 8か所を選び, 調査を行なった. 1988年から2005年の 5月から 9月に, 双眼鏡や望遠鏡でハチクマを探索し, 1/25,000~1/50,000地形図上にハチクマの飛行経路を記し, 餌の運搬方向などから営巣林の特定を試みた. 営巣林が特定できた場合には, その場所を踏査して巣を探索した. なお, それぞれの調査地は著者のうちいずれかが担当して行なったので, 調査地とともに調査の責任者を示した. 以下に, 調査地の概要について述べる.

1. 玉名市小袋山(井上)

2006年 2月14日 受理

キーワード: ハチクマ, 繁殖記録, 熊本県

熊本県北西部の玉名市に隣接する標高501mの独立した山系で、アカマツ *Pinus densiflora* やカシ *Quercus* sp, コナラ *Q. serrata*, クヌギ *Q. acutissima*, ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* の混交林と スギ *Cryptomeria japonica* やヒノキ *Chamaecyparis obtuse* の人工林からなり、山腹と山麓にはミカン園やナシ園が広がる。また、10kmほど西には有明海がある。

2. 八代市龍峰山(井上)

熊本県中南部の八代市に隣接する標高517mの山系で、カシやシイ、アカマツ、エノキ *Celtis sinensis*, タブノキ *Machilus thunbergii* などからなる混交林とスギやヒノキの人工林からなり、山腹と山麓にはミカン園が広がる。九州山地の西の端に位置し、10kmほど西には不知火海がある。

3. 球磨郡多良木町黒肥地の山林(西・井上)

熊本県南部の球磨盆地の北東に位置する標高200m前後の丘陵地帯で、カシやシイ、アカマツ、クヌギ、コナラからなる混交林やスギ、ヒノキの人工林からなり、周辺に果樹園がある。

4. 球磨郡あさぎり町深田の山林(井上・工藤)

熊本県南部の球磨盆地の北に位置する標高200m前後の丘陵地帯で、カシやシイ、アカマツ、クヌギ、コナラからなる混交林とアカマツ、スギ、ヒノキの人工林からなり、モモ *Prunus persica* やクリ *Castanea crenata* の栽培が多少行なわれている。

5. 球磨郡山江村番慶の山林(井上)

熊本県南部の球磨盆地の北西に位置する標高200m前後の丘陵地帯で、カシやシイ、アカマツ、クヌギ、コナラからなる混交林とスギやヒノキの人工林からなり、周辺に果樹園が少しある。

6. 菊地郡大津町高尾野の山林(井上・本田)

熊本県東北部にある阿蘇北外輪山の西側山麓で、標高200mから400mのスギやヒノキの人工林を中心にした、カシやシイ、アカマツなどの混交林で、周辺に果樹園が少しある。

7. 熊本市金峰山(井上・船方・工藤・本田)

熊本県中部の北西に位置する660mほどの独立山系で、カシやシイ、アカマツ、タブノキ、チシャノキ *Ehretia ovalifolia*, クス、モウソウチクチク *Phyllostachys heterocyclus* などの混交林とスギやヒノキの人工林からなり、4kmほど西には有明海がある。

8. 下益城郡小川町東海東の山林(皆吉・井上)

熊本県中部の九州山地西端に位置する100mから300mほどの低い山の連なりで、カシやシイ、アカマツ、タブノキ、エノキの混交林やスギ、ヒノキの人工林からなり、周辺に果樹園がある。また、15kmほど西に不知火海がある。

結 果

1. 玉名市小岱山

1989年、繁殖期にあたる 8月5日と 8月14日に、見通しの良い小岱山の南西斜面よりハチクマの生息確認の調査を行ない、つがいの飛翔を 5回と雄と雌のディスプレイを観察した。尾根の反対側となる小岱山の東側から雄と雌があらわれ、調査地点の上空を越えて南西や西の林へ降りたり、北西へ飛んだりしたことから、小岱山の東側に営巣地があると推測されたが、この周辺を観察するためのよい観察場所がなかったため、営巣地を確認することはできなかった。

2. 八代市龍峰山

1988年から1991年までの繁殖期に龍峰山の東と西の麓から、生息と繁殖を確認する調査を毎年 2～4回行ない、1988年には 7月10日と 7月16日、8月 4日に雄 3回と雌 1回の生息を確認し、1989年には 7月23日と 9月10日に雄 1回と雌 1回の生息を確認した。1990年には 6月 9日と 8月 5日、8月12日に雄 4回と雌 1回の生息を確認したが、9月 9日にはまったく観察できなかった。1990年 8月5日に、龍峰山の東側斜面で餌運びが観察されたため、ハチクマが入った林を踏査したところ、ハチクマのものと思われる巣が見つかった。巣は、山頂の南東側となるカシやエノキ、クス *Cinnamomum camphora* などの混交林からなる浅い谷の上部にあり、胸高直径40cm、樹高20mほどのエノキの梢に近い部分にあった。ヒナはみられず、巣の上にとまっていた雌成鳥を確認しただけであるが、巣の下にキアシナガバチ *Polistes rothneyi* の巣が落ちており、ハチクマの巣であると考えられた。1991年の繁殖期にはこの巣は利用されていなかったが、6月から 8月にわたる 5回の調査で生息が確認されたことから、別の巣で繁殖していた可能性が考えられた。1992年ごろに営巣地で送電線工事が行なわれたが、それ以降はハチクマが観察されなくなった。

3. 球磨郡多良木町黒肥地の山林

1989年 5月から 8月に 5回、1990年 5月から 6月に 3回、1991年 7月に 2回の調査を黒肥地地区一帯で行なった。1989年には雄と雌の生息が確認され、1990年には河岸段丘のスギに営巣しているのを発見した。しかし、抱卵をはじめた直後に卵がなくなり、その後はつがいもいなくなった。1991年の調査では、5月23日と 5月27日につがいの生息を確認したが、その後 7月まで 3回の調査ではハチクマの生息は確認できなかった。1990年頃より、巣があった付近で広域農道の工事がはじまったので、その影響による可能性も考えられる。

4. 球磨郡あさぎり町深田の山林

1990年と1992年の繁殖期に、生息と繁殖の確認調査を行なった。1990年には 3回の調査を行ない、雌雄 1回ずつの生息を確認したが、調査回数が少なく、繁殖しているかどうかについての情報は得られなかった。1992年 7月19日、アカマツ林の一角へハチクマの雄が丸い塊を運び込むのが観察された。しかし、その付近の踏査を行なったが巣を見つけることはできなかった。8月 2日に再

びアカマツ林内で調査範囲を広げ踏査を行なったところ、胸高直径40cm、樹高20mのアカマツの高さ15mほどの幹近くに巣を発見した。巣は、100haほどのアカマツ林のおよそ南東端に位置する浅い谷の上部にあり、巢内には巣立ち近い2羽のヒナがいた。11時ごろから13時まで観察したところ、雄がキアシナガバチの巣から幼虫を取り出してヒナに与えたこと、頭胴長約10cmのウシガエル *Rana catesbeiana* を運んできたことを確認した。その数日後に営巣地一帯を強い台風が通過したため、1992年8月10日に再調査をしたところ、巣はまったくなくなっていた。しかし、近くで1羽の巣立ちヒナを確認した。

5. 球磨郡山江村番慶の山林

1990年9月11日の1回、1991年は7月22日、7月30日、8月1日の3回の調査を行ない、1991年7月22日には雌が1回、7月30日には雄が1回、8月1日には雄が1回、営巣地と思われる林に入るのを観察した。そこで、1991年8月18日に林内を踏査したところ、胸高直径40cmのクスの、高さ10mほどの幹近くに、やや崩れた古い巣が見つかった。元の巣の大きさを推定すると、直径が60cm以上で厚みが30cm以上と思われ、100mほど離れたアカマツにあった、直径50cm、厚み20cmほどのサシバの巣と比べて大きいと判断された。また、近くではトビは観察されなかったことから、ハチクマの古巣だと思われた。しかし、新しい巣は発見できなかった。

6. 菊地郡大津町高尾野の山林

1994年の渡来時期にハチクマのつがいが、侵入個体かと思われる別のハチクマを追い出すのが観察され、この場所で繁殖している可能性が示唆されたため、1994年と1995年の繁殖期に生息と繁殖の確認調査を行なった。しかし、1994年と1995年の3回の調査では、見通しの良い観察場所が見つからず、つがいの生息すら確認できなかった。

7. 熊本市金峰山

1996年から2005年までの繁殖期に調査を行ない、すべての年につがいの定着を確認するとともに、それ以外に非繁殖個体と思われるハチクマの定着も確認した。2000年7月16日には、翼に傷のない雄2羽が、つがいとともに同じところから旋回上昇するのを確認し、2001年7月22日には雄1羽、2003年8月には雌1羽、2004年8月22日には雄1羽を確認した。2005年5月15日には、雄個体がつがいのテリトリーから北北東へ4kmほどディスプレイをくり返しながらかるのを観察したが、その直後につがいのテリトリー内で、つがい以外に1羽の雄個体を確認した。

また、2005年7月18日と7月23日にはつがいのテリトリー内で、雄雌各1羽のつがい以外の個体を確認した。

2000年から2003年には巣も確認し、それぞれの年でヒナが1羽、2羽、1羽、1羽と育っているのを観察した。営巣した場所はいずれも金峰山の北側の山麓で、標高250mほどの河岸段丘の斜面であった。

営巣木は、2000年は胸高直径50cm、高さ25mのクスで、高さ13mほどの横枝がフジ *Wisteria floribunda* の蔓に挟まれた部分に巣があった。出入口が南東のみの周囲から目立たない巣だった。2001年は胸高直径35cm、樹高20mのシイで、高さ17mほどの梢に近いところに巣があった。2002年と2003年は胸高直径40cm、樹高15mのチシャノキで、高さ10mで幹が四方に分かれた部分に巣があった。

巣へ搬入した餌は、2001年でヒナが20日齢のころに、雄がアマガエル *Hyla japonica* を給餌するのと、キアシナガバチの巣を搬入し幼虫を与えるのを観察した。この時、黒いさなぎは雄が自分で食べ、羽化していたハチはつまみ出した後に捨てていた。また、ヒナの巣立ちのころに、雄が巣の上で蜂蜜の固まりと思われる、5cm四方の白い板状のものをかじるところを観察した。巣の下を調査したところ、2000年にハチの巣を1個確認し、2001年にはキアシナガバチの巣を23個確認した。2002年と2003年には、ハチの巣は確認することができなかった。いずれの年も巣の中や巣の下はヒナの糞で汚れはいなかった。

8. 下益城郡小川町東海東の山林

1990年の6月から8月まで3回の調査を行なったところ、雄を2回確認した。また、2001年の7月から9月に15回の調査を行なったところ、3羽の成鳥が同時に観察されたことを含め、雄を4回、雌を3回確認し、巣立ち後の幼鳥2羽を確認した。そのことから、繁殖の可能性が考えられた。また、11月11日にハチクマが何回も入っていた林を踏査したところ、胸高直径50cm、樹高20mのシイの高さ15mの幹近くに大きな巣を見つけ、ハチクマの巣ではないかと思われた。2002年8月14日、雄がムクドリ大の鳥と思われる獲物を2001年に巣が見つかった林へ運び込むのが観察されたので、2001年に発見した巣を観察したところ、巣立ち近いハチクマのヒナ1羽を確認した。巣の下を調べた際には、ハチクマが幼虫を食べた後のハチの巣は確認できず、ハチクマの糞が飛び散った跡がわずかに観察された。9月4日には、親鳥と思われる個体とともに飛翔する、幼鳥と思われる個体を観察したので、繁殖に成功したものと考えられる。

考 察

これまで熊本県においてハチクマの巣が確認された場所は、200mから300m程度の標高に位置していた。また、生息環境は、生息を確認した7か所中6か所は広葉樹を主体とする林が中心域にあり、その周囲に果樹園が点在、あるいは取り囲んでいるような場所であるが、このような環境がハチクマの生息にとって好適な条件となっている可能性がある。このような環境には食物となるハチヤカエルなどの生息数が多いのかもしれない。

営巣木として利用する樹種は、今回の調査ではシイが2例、スギが1例、アカマツが1例、クスが1例、エノキが1例、チシャノキが1例であったが、特に営巣に適した樹種というものは確認できなかった。しかし、営巣木となる木の大きさは胸高直径30cm以上、高さ15m以上であり、アカマツの人

工林での営巣例を除いては、巣は周囲から見えにくい位置に掛けられていた。ハチクマの雄が餌を巣に運ぶ際に、ハシブトガラスに執拗に追われる目撃例があったが、いずれの営巣地にも数羽から数10羽のハシブトガラスやハシボソガラスが生息していたことから、それに対する警戒の必要があるのかもしれない。

熊本市金峰山では、育ったヒナの数に2羽の年と1羽の年があったが、その違いは、ヒナが必要とする食物の量が十分に確保できたかどうかにあったと考えられる。2羽のヒナが育った年は、巣立ち後の巣の下に23個のキアシナガバチの巣が落ちていたが、1羽しか育たなかった2000年には1個しか落ちておらず、2002年と2003年には1つもハチの巣は落ちていなかった。球磨郡あさぎり町でも2羽のヒナが育ったが、ハチの幼虫を与えることはあまりなかったが、それに代わるウシガエルなどを食物として確保できたためと思われる。

これまで、熊本県内で確認された繁殖期におけるハチクマの観察場所は、今回、調査を行なった8か所以外にも14か所あり、それを加えると22か所におよぶことになる。その中で、今回の調査地でのハチクマの繁殖地に類似する環境をもつ生息地は、6か所ほどある。これらの場所は今回の調査地の中心域から少なくとも8km以上離れていることから、別のハチクマが繁殖している可能性がある。今回の調査で繁殖の確認ができた4か所、繁殖の可能性のある3か所にこれらの場所を加えると、熊本県内では10か所ほどで、ハチクマが繁殖している可能性がある。

謝 辞

阿久根修、坂梨仁彦、田中忠、光永汪、有馬宏幸、大岩憲治、塚原和之の各氏には、ハチクマにかかわる社会的な影響や生息にかかわるいろいろな情報をいただいた。また、伊関文隆、古南幸弘、浦達也の各氏には発表に関していろいろお世話いただいた。厚くお礼を申しあげたい。

引用文献

- 森岡照明・山形則男・叶内拓哉・川田隆. 1995. 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会. 1998. 熊本県の保護上重要な野生動植物. 熊本県環境生活部 自然保護課, 熊本市.

Aspect of Honey Buzzard habitat in Kumamoto prefecture

Kenzaburo Inoue¹, Etsuo minayoshi², Terunobu Nishi³, Yoshiteru Funakata⁴,
Eisuke Kudo⁵ & Kazuhiko Honda⁶

1. 11-4 Shigetomi, Ezu, Kumamoto, Kumamoto 862-0947, Japan
2. 835-23 Minami, Toyo, Yatsushiro, Kumamoto 869-4301, Japan
3. 4115 Kurohiji, Taraki, Kuma, Kumamoto 868-0502, Japan
4. 3600-225 Tsukure, Kikuyo, Kikuchi, Kumamoto 869-1101, Japan
5. 3337-4Aioi, Nishigousi, Kikuchi, Kumamoto 861-1101, Japan
6. 12-1 Ozawa, Kumamoto 860-0042, Japan

In Kumamoto Prefecture, breeding investigation about the Crested Honey Buzzard *Pernis apivorus* from 1988 downward, breeding of the Crested Honey Buzzard was checked for the first time in Fukada Asagiri town Kuma county in 1992. Breeding was checked in 2000 at Mt. Kinpou in Kumamoto city and breeding was checked continuously in Higashi-Kaito Ogawamachi Shimomashiki county in 2002.

Each breeding places are the low-mountainous area around Kyushu Mountains and independent mountain chain in Kumamoto city. And as a nesting wood, it was a red pine forest in the case of Fukada asagiri town Kuma county, and it was a mixed wood with many broadleaf forest consist of Japanese Oak, *Castanopsis cuspidata*, *Machilus thunbergii*, *Ehretia ovalifolia*, *Celtis sinensis*, and *Castanopsis* sp in other two places.

The number of squabs which left a nest were one in four examples among six examples in the three above mentioned parts, and two examples were two. Moreover, there is possibility of breeding of the Crested Honey Buzzard about ten places in Kumamoto except it.

Key words: breeding record, Kumamoto prefecture, Pernis apivorus